

インデント・プローブ・テクノロジー株式会社 代表取締役 名倉義幸 博士(総合政策)

ユニークな顕微インデンテーション技術によって、さまざまな力学特性(弾性、塑性、破壊強度、ヤング率など)を短時間で収集し、評価、解析する装置を開発し、インデント・プローブ・テクノロジー社を創業しました。たとえば、電子基板向けに開発した高温用ハンダ組成の力学特性を試験するのに数ヵ月かかっていたものを1時間程度に短縮、多くの開発材料を試験できることは、新素材開発で不可欠です。既に大手企業にも活用されています。また医療分野でも人工網膜の酸素透過性ポリマーなどの柔らかい素材からステントといった硬い素材まで、さまざまな素材の評価への利用、さらにフィルム表面の応力緩和特性の評価など、今後の成長産業の発展に寄与できると考えています。



PUSHING THROUGH THE BLIND SPOTS OF MICROMECHANICAL TESTING

A new microscope provides quick, quantitative materials characterization using A TRANSPARENT PROBE INDENTATION SYSTEM.

Natureに掲載された記事

これまでの自分のキャリアを振り返り、それを整理して論文としてまとめようと、55歳にして博士課程に入学、国内外の学会で論文を発表しました。博士号取得後には、産業技術総合研究所にあった「技術の種」からスタートアップ企業を創業するという機会に遭遇し、2017年にインデント・プローブ・テクノロジー株式会社を創立しました。創業まもなく、NEDOが主催するコンテストに採択され、シリコンバレーへ。ほかの参加者の皆さんは20代、30代の方々でした。サンフランシスコ会場では5分間の英語によるプレゼン、現地の投資家や審査員からの英語によるキツイ質問も、何とか乗り切ることができました。その後、欧州のオランダからも誘いがあり、フィリップスの跡地を利用したスタートアップ企業を支援するキャンパスを訪問する機会にも恵まれました。世界の国々でベンチャーを育成するスキームとその本気度に接して、とても新鮮でした。



上智大学では緒方直哉先生のもとで高分子化学を学び、キヤノンでは、研究開発、製造支援、事業企画などの業務に従事し十数年勤務しました。

その後、経営についての基礎知識を体系的に学びたいと思い、35歳を過ぎてから、しかも働きながら修士課程(MBA)に通いました。そして終了後には当時、日本ではまだ無名、でも米国で急速に成長していたベンチャー企業の通信機器メーカーであるシスコ・システムズの日本法人(当時15人程度)に思い切って転職しました。私はリスク・テイクが好きな性分で、何が技術の肝で、どこにバリューがあるのかを見極めることに興味がありました。その後も、シスコ・システムズでの経験を生かし、海外のベンチャー企業で日本市場に進出するスタートアップ企業に次々駆け出されました。当然、新規参入ですから国内では一人で始めます。スタートアップ企業は成功する場合もあれば、途中で倒産、買収などの激流に遭遇します。当時、私は私の「内なる思い」との対話では、何事にも好奇心を持って、探究心を忘れず、時代の変化を楽しむことが大切、という思いでした。



NEDO Silicon Valley Program



オランダ・フィリップスの跡地を利用したスタートアップ環境

今、上智大学のキャンパスで大学生生活を謳歌している皆さんには、いろいろなことに好奇心を持って、コミュニケーション力を磨いてください。社会に出たら、常に新しいことにチャレンジするチャンスがあることを忘れず、自らの「内なる思い」と向き合い、それを楽しみながら、活躍していただきたいと思います。私は今も新たな挑戦をしています。「日本画」の制作です。ここでは、伝統的素材(麻紙、岩絵具、膠)を使います。これまで旅行で訪ねた欧州でのスケッチ画を基に、その時の日差しや空気、風、香りなど感動した気持ちに思いを馳せ制作しています。画塾に通い、先人たちの画法や工夫も学んでいます。幾つになっても「師匠」を持つこと

は、豊かな人生を送る上で、とても大切なことです。

